

第63回日本神経学会学術大会 終了の御礼

謹啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

此の度は、東京で開催しました第63回日本神経学会学術大会にご参加いただき、誠に有難うございました。新型コロナウイルス感染症パンデミックに加えてウクライナとロシアの紛争の中、お蔭さまで現地参加は4,194名、WEB視聴者を含めると8,296名と、多くの皆様にご参加いただきまして、無事終了することができました。これもひとえに皆様のご協力とご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

今年は新型コロナのオミクロン変異株まん延による感染拡大という新局面を迎え、一ヵ月先の情勢をも見通せない中で、関係各位のご尽力により何とか対面を推奨とした、一部ハイブリッド方式で計画通りに開催することができました。本学術大会運営にあたっては、学会事務局と運営事務局の双方の御協力のもとで、作業を進めることができました。またプログラム編成にあたっては、学術委員や教育プログラム小委員および関連の皆様、多大な御支援を頂きました。ここに改めて感謝申し上げます。

今大会のテーマは「幸福100年社会における脳神経内科の展望—AI技術との共存に向けて—」といたしました。現在100歳以上の人口は8万人を超えました。平均寿命も男女ともに80歳を超え、平均寿命は男女合わせたデータですと世界1位、男性はスイスに次いで2位、女性は1位です。一方、2000年にWHO(世界保健機関)が健康寿命を提唱し、寿命を延ばすだけでなく、いかに健康に生活できる期間を延ばすかに関心が高まっていると言えます。平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「健康ではない期間」を意味します。2016年において、この差は男性8.84年、女性12.35年でした。前回調査と比べて、男女とも平均寿命・健康寿命の差は縮小しているものの、今後、平均寿命が延びるにつれてこの差が拡大する可能性もあり、健康上の問題だけではなく、医療費や介護費の増加による家計へのさらなる影響も懸念されています。超高齢社会を迎えて我が国では益々脳神経内科の需要が増すことは間違いありません。脳神経内科は加齢とは対比的な小児神経にも関わるが多く、子供から老人まで幅広く対応する診療科と言えます。治らない診療科のイメージが強かった診療科でしたが、医学の進歩により現在は、核酸治療や抗体療法も登場しております。神経変性疾患にも自律的細胞死の他に非自律的細胞死の考え方も登場し、グリア細胞の関わりも注目され、“治らない”、“原因が分からない”から原因が究明され、脳神経内科医の役割は、“診断する時代”から、“診断して治す時代”へ、更には“根治する時代”へとシフトしていると言えます。更には人工知能、AIの登場により画像診断などはAIによる診断が今後主流になるかもしれません。AIと共存することが求められる時代を今まさに迎えようとしています。このような意図が本大会を通じて参加者の皆様に伝わったとすれば望外の喜びです。

ここに第63回学術大会の全日程が無事終了しましたことを報告させていただきます。大会を大いに盛り上げていただきました皆様に重ねて心より御礼申し上げます。この大会が神経疾患の研究と医療の一層の発展に繋がることを祈念し、お礼の挨拶とさせていただきます。

皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

謹白

2022年5月吉日

第63回日本神経学会学術大会
大会長 服部 信孝(順天堂大学大学院医学研究科神経学教授)

【大会長校事務局】 順天堂大学大学院医学研究科神経学

【学会事務局】 日本神経学会事務局

【運営事務局】 第63回日本神経学会学術大会運営事務局
株式会社コンベンションリンケージ

大会長校事務局：

順天堂大学大学院医学研究科神経学 〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1

学会事務局：

一般社団法人日本神経学会 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-21 一丸ビル 2階 TEL：03-3815-1080 FAX：03-3815-1931

運営事務局：

株式会社コンベンションリンケージ内 〒102-0075 東京都千代田区三番町 2 TEL：03-3263-8688 FAX：03-3263-8687

E-mail：neuro2022@c-linkage.co.jp

